

「日本スポーツ栄養研究誌」執筆要項

1. 投稿原稿の構成

投稿原稿は、以下に示すように1) 表紙、2) 本文、3) 和文抄録、4) 英文抄録（総説、原著、短報の場合のみ）、5) 図表で構成する。各項目の詳細は以下のとおりである。

1) 表紙

論文タイトル、投稿者氏名、所属機関および部署名、連絡責任者の情報（氏名、郵便番号、住所、電話番号、E-mailアドレス）、原稿の区分（総説、原著、短報、スポーツ栄養マネジメント報告、実践活動報告、資料のいずれか）、図表の数、キーワード（3～5個）を記載する。

2) 本文

原則以下の項目に沿って本文を構成すること。

①原著・短報の場合

I. 緒言、II. 方法、III. 結果、IV. 考察、V. 結論、謝辞、利益相反、文献

②スポーツ栄養マネジメント報告の場合

I. スポーツ栄養マネジメントの目的、II. 対象とマネジメント内容、III. 結果、IV. 考察、V. 結論、謝辞、利益相反、文献

③実践活動報告の場合

I. 事業・サポート活動の目的、II. 事業・サポート活動の内容、III. 事業・サポート活動の成果、IV. 今後の課題、謝辞、利益相反、文献

④総説および資料の場合

本文（必要に応じて見出しをつける[下記 3-11 を参照]）、謝辞、利益相反、文献

3) 和文抄録

原則以下の項目に沿って和文抄録を構成すること。

①原著・短報の場合

【目的】、【方法】、【結果】、【結論】に分けて、600字以内にまとめる。

②スポーツ栄養マネジメント報告の場合

【目的】、【マネジメント内容】、【結果】、【結論】に分けて、600字以内にまとめる。

③実践活動報告の場合

【目的】、【活動内容】、【成果】、【今後の課題】に分けて、600字以内にまとめる。

④総説および資料の場合

本文の内容を600字以内にまとめる（必ずしも項目毎に分ける必要は無い）。

4) 英文抄録

総説、原著、短報については英文抄録を作成すること。英文抄録の最初には英語の[Title]、[Author (s)]、[Affiliation (s)]を記載する。原著・短報については[Aim]、[Methods]、[Results]、[Conclusion]の項目に沿って構成し、250words以内にまとめる。総説の場合には、項目毎に分ける必要は無い。

2. 原稿の作成フォーマット

1) パーソナルコンピューターを用い、本文はA4判用紙を縦置きとして、横書きで作成する。図表は本文とは別のファイルに分け、それぞれ下記の汎用ソフトで作成する。

本文ファイル：Microsoft Office Word

図表ファイル：Microsoft Office Word、Excel、PowerPoint、PDF、JPEG

2) 1頁あたり40字×25行とし、余白を上下各30mm、左右各20mmに設定する。

3) フォントは、10.5ポイント以上のものを使用すること。

- 4) 表紙から和文抄録もしくは英文抄録までには、通し頁（原稿下部の中央）および行番号（全頁での通し番号）をすべての行につける。
- 5) 数字には算用数字を用い、数字や英字は半角とする。
- 6) 図、表、写真には [図 1]、[表 1]、[写真 1] 等の通し番号をつけ、本文の欄外に、それぞれの挿入位置を指定する。

3. 原稿作成上の注意

- 1) 文章は、ひらがな、新かなづかいとし、漢字は原則として常用漢字とする。
- 2) 栄養学用語は、日本栄養・食糧学会編「栄養・食糧学用語辞典」、医学用語は、日本医学会医学用語管理委員会編「医学用語辞典」等に準ずること。
- 3) 実験に用いる機器名や物質については、一般名や化学物質名を用い、可能な限り商品名は用いない。商標登録された試薬や機器を用いた場合は、その試薬・機器の一般名を記載し、括弧内に商標登録名、メーカー名、その所在地（同一メーカーが再掲の場合は不要）を記載する。
- 4) 数量は算用数字を用い、桁数の多い数は3桁ごとにカンマで区切る。ただし、ページ数、通算番号（文献、特許等）の数字にはカンマを入れない。主な単位は次のように表す。km、cm、mm、nm、kg、g、mg、L、mL、kcal、mmol 等とする。
- 5) 論文中、繰り返し使われる語句に略語を用いてかまわないが、初出の時には省略しない。
- 6) 普通に用いられている外国語の術語、物質名などはカタカナとする（例：Paper chromatography→ペーパークロマトグラフィー）。カタカナにすることによって意味が不明瞭になるおそれがあるものはこの限りではない。
- 7) ビタミン名については、化学的意味が重要な場合は化合物名（例：チアミンなど）を用いるが、栄養学的意味に主眼をおいて用いる場合はビタミン名（例：ビタミンB₁など）を用いてもよい。
- 8) データの統計学的取り扱いについては、統計学の専門家もしくは統計学に詳しい人に十分相談の上、正しい取り扱いをするように特に留意する。市販のコンピューターソフトを利用して処理した場合は、利用したソフト名（バージョン）を本文中に記載する。
- 9) 図や表を引用・転載した場合には、投稿前に著作権者の承諾を得て、引用文献番号に加えて、図や表の下に出典を明示する。
- 10) 本文中の年は西暦で記載する。文献に関しては、「4. 文献リスト」の項を参照のこと。
- 11) 本文は、大見出しI. II. III. …、中見出し1. 2. 3. …、小見出し1) 2) 3) …、などを用いて明瞭に区別する。
- 12) 文献は論文に直接関係のあるものにとどめ、引用順とし、本文の最後に一括して記載する。本文中の引用文献番号は右肩付とする。連続する2つの文献を引用する場合、半角カンマと半角スペースで文献番号を区切る（例：1, 2）。連続しない3つ以上の文献を引用する場合、半角カンマと半角スペースで文献番号を区切る（例：1, 3, 5, 7, 10）。連続する3つ以上の文献を引用する場合、最初の文献番号と最後の文献番号を「～」でつなぐ（例：2～5）。また、本文中に著者名で引用する場合、著者が2名以下の場合にはすべての姓を記し（例：木戸・恩田¹⁾）、3名以上の場合には最初の著者の姓を記し「ら」をつける（例：田口ら¹⁾）。文献は、一般的に検索可能な公刊文献に限り、入手困難、検索不可能な文献は避ける（文献として引用できないものの例：社内資料、未発表論文、公刊されない学位論文、カタログ等）。

4. 文献リスト

引用文献の記載は、下記のように欧文雑誌名は略記し、イタリック表記とする。和文雑誌名は略記しない。

- 1) 【雑誌】 著者名（和文はフルネームで、欧文は姓のみをフルスペル、その他はイニシャルのみで3名まで記し、それ以上の場合「他」、[et al.]を用いて略記する）：論文タイトル、雑誌名、巻数、初頁-終頁（発行年）
（和）金田美美、菅野幸子、佐野文美、他：我が国の子どもにおける「やせ」の現状：系統的レビュー、栄養学雑誌, 62, 347-353 (2005)
（洋）Rosell, M.S., Hellenius, M.L.B., de Faire, U.H., et al.: Associations between diet and the metabolic syndrome vary with the validity of dietary intake data, *Am. J. Clin. Nutr.*, 78, 84-90 (2003)
- 2) 【単行本（報告書も含む）】 著者名：論文タイトル、書名、(編者), pp.初頁-終頁（発行年）、出版社、所在地
（和）健康・栄養情報研究会編：厚生労働省平成16年国民健康・栄養調査報告, pp.90 (2006), 第一出版, 東京
（洋）WHO: The World Health Report 2002: Reducing Risks, Promoting Healthy Life (2002), WHO, Geneva
- 3) 【翻訳本】 著者名：原著名/訳者名、書名, pp.初頁-終頁（発行年）出版社、所在地
Willet, W.: *Nutritional Epidemiology*, 2nd ed./田中平三監訳, 食事調査のすべて— 栄養疫学— (第2版), pp. 93-97 (2007), 第一出版, 東京
- 4) 【インターネット上の文献】 著者名*: 表題名*, URL, (アクセス日*)
文部科学省, 厚生労働省: 疫学研究に関する倫理指針, <http://www.mhlw.go.jp/general/seido/kousei/ikenkyu/ekigaku/sankousiryoy19kaisei.html>, (2008年12月20日) (注*: 明らかな場合。)